

ブロッコリー緑肥試験現地検討会を開催しました

6月28日に上田市真田町現地ほ場において、ブロッコリー緑肥試験現地検討会を開催しました。

当センターでは、土づくりに使用されている堆肥について、散布が手間であること、堆肥の価格が高価であることから、種子をまくだけで、地力の増進と土壌物理性の改善効果が期待される緑肥に着目し、その効果を実証するため昨年度から実施しています。

今回は、昨年度の試験結果報告と本年度の生育状況を見ていただきました。

当日は、JA、地元農業青年クラブ「青葉会」会員、上田市役所真田自治センターが参加し、5月6日に播種をした「ライ麦（品種：ダッシュ）」、「ソルガム（品種：元気ソルゴー）」、「セスバニア」の3種について、検討しました。

今年は、夏の定植に間に合うように5月に播種し、ライ麦とソルガムは人の背丈ほどに成長しましたが、セスバニアは試験期間中低温だったため、ほとんどが発芽しませんでした。

参加者からは、「ブロッコリーを年間2作するが、春作と秋作の間に緑肥を組み込むことを提案できないか？」という要望をいただきました。

その他「すき込むタイミングとして、どのくらい成長した時が望ましいのか?」、「すき込むために、ハンマーナイフモアのような細断する機械が必要ではないか?」、「費用対効果を検証してほしい」等、様々な意見をいただき、関心の高さが伺えました。

今後、生育調査を行った後、7月上旬にすき込んで、土の状態の変化について調査を行う予定です。

